

補正書の請求の範囲

[2004年7月12日（12.07.2004）国際事務局受理：出願当初の請求の範囲12及び5は取り下げられた；他の請求の範囲は変更なし。（2頁）]

1. (削除)
2. (削除)
- 5 3. 既存の中層建築物（1）の基礎の外側に高層建築物用の免震基礎（5）を新たに設け、該新たに設けられた免震基礎の上に支持部材（6）を立設し、次いで該支持部材を利用して既存建築物の上方に新たな居住階（10）を形成することにより、中層建築物を高層建築物へと増築する方法であって、前記新たな居住階の完成後に、前記既存の中層建築物の地上部を解体撤去し、これにより形成された空間内にて前記支持部材間に梁（16）を架構して2階以上の床を構築し、次いで1階の床を既存の杭基礎（9）の上部に設け、しかる後に形成された各階の床上に新たな居住空間を形成することを特徴とする建築物の耐震補強増築方法。
- 10 15 4. 既存の中層建築物（1）の基礎の外側に高層建築物用の免震基礎（5）を新たに設け、新たに設けられた免震基礎の上に支持部材（6）を立設し、次いで該支持部材を利用して既存建築物の上方に新たな居住階（10）を形成することにより、中層建築物を高層建築物へと増築する方法であって、前記新たな居住階の完成後に、前記既存の中層建築物について、上層階を解体撤去して残りの各階を順次改裝することを特徴とする建築物の耐震補強増築方法。
- 20 25 5. (削除)
6. 既存の中層建築物（1）の基礎の外側に高層建築物用の免震基礎（5）が設けられ、該免震基礎の上に支持部材（6）が立設され、該支持部材を利用して既存建築物の上方に新たな居住階（10）が形成されてなる建築物であって、前記既存の中層建築物の地上部を解体撤

去して形成された空間内にて前記支持部材間に梁（16）を架構することにより2階以上の床が構築され、1階の床は既存の杭基礎（9）の上部に設けられ、形成された各階の床上に新たな居住空間が形成されてなることを特徴とする耐震補強増築建築物。

5 7. 既存の中層建築物（1）の基礎の外側に高層建築物用の免震基礎（5）が設けられ、該免震基礎の上に支持部材（6）が立設され、該支持部材を利用して既存建築物の上方に新たな居住階（10）が形成されてなる建築物であって、前記既存の中層建築物は、上層階が解体撤去されて残りの各階が改裝されてなることを特徴とする耐震補強増
10 築建築物。